

## 開催報告

## 第18回日本医療マネジメント学会学術総会

## 第18回日本医療マネジメント学会学術総会

会長 田中二郎

(株式会社麻生飯塚病院名誉院長)

まずこの度の熊本地震で不幸にも亡くなられた方々のご冥福を祈り深い哀悼の意を表します。また被災地でこれから困難な生活を強いられる被災者の皆様、こころも体も疲れられた負傷者の方々にお見舞いの言葉を届けたいと存じます。直後には開催自粛を考えましたが、本学会会員の応援メッセージを集め、そして被災地へ届けるために開催させていただきました。災害からの復興が一日も早いことを祈ります。また、地域医療ネットワークが十分機能して必要なひとびとへ必要な医療が届けられるようにお祈りいたします。

2016年4月22日(金)、23日(土)の両日、福岡国際会議場及び福岡サンパレスにおいて第18回日本医療マネジメント学会学術総会を開催させていただきました。ご存知の通り、4月14日及び4月16日の二度にわたる震度7の熊本地震により開催が危ぶまれた本学術総会は被災地からのキャンセルがあったものの3,800に迫る方々のご参加をいただき、全日程を無事終了することができました。参加者ならびに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。特に、宮崎久義理事長と学会事務局の皆様はご自身が被災者という困難極まる状況を押してご参加いただきましたこと、学術総会会長として言葉に表せないほどの感動を覚えるとともに、深い感謝と尊敬の念を抱きました。

今回の学術総会のテーマは「明るい病院改革～改善とイノベーションで切り拓く明日の最適医療～」としました。医療技術の高度化を始めとする医療費の高騰の中で医学の進歩を可能にすべく

開会式  
会長挨拶

会場風景

医療に潜むムリ・ムダ・ムラを省き、イノベーションで患者・医療提供者・国民全てが納得する最適な医療を切り拓いていくための様々な課題を取り上げたいと考えました。プログラムは地震災害の影響を受け、最終的には指定講演・シンポジウム等27題(1題減)となりましたが、基調講演、会長講演、招待講演3題、特別講演2題、教育講演4題、その他に教育セミナーとして医療安全、クリティカルパスをテーマにした2題が盛り込まれた充実した内容となりました。シンポジウムでは多岐にわたる領域が網羅され、計13テーマの有意義な討議を実施していただきました。加えて、患者急変対応時の多職種連携の促進を目的としたチームシミュレーションが開かれ、参加者全員が熱心にロールプレイからの学びに挑戦しました。

一般演題も当初1,121題を採用いたしましたが、地震災害の影響で最終的には1,047題(口演:734題、ポスター:308題、クリティカルパス5題)の演題が発表されました。最も多かったカテゴリは「医療の質」で218題、次いで「地域連携」が190題、「医療安全」が189題となりました。その他にも例年通り「病院運営」「教育」「看護業務」「患者サービス」なども相当数の応募をいただきました。

第一日目の招待講演1では、JR九州クルーズトレイン「ななつ星in九州」を開発した仲義雄先生に「新たな鉄道の旅をつくる挑戦」と題した講演をいただきました。運行開始3年目を迎えてもなお平均倍率26倍、最高倍率193倍という驚異的人気を誇る日本初の豪華寝台列車が人々に与える感動と巡り合いについて熱く語っていただき、満員の聴衆を魅了されました。

もう一つの招待講演2はテレビのニュースコメンテーターを長く勤められたボストンコンサルティンググループの御立尚資先生の「変化の時代とヘルスケアイノベーション」で、今起こっている変化の原因を知り、自ら動き、変化に先んずることの重要性をお話されました。先生のお話の一つ一つから聴く者皆、何かしらの気づきを得たものと思います。南極観測の越冬隊長の西堀栄三郎氏がブリザード吹き荒れる極寒の中、外にある灯油タンクと室内を繋ぐパイプがないという難問を解決するため、濡らして巻きつけた包帯を凍らせて作ったパイプで繋ぎ、隊員の遭難凍死を防いだという話をされました。普段見慣れた風景の中にイノベーションの種があること、ヘルスケアに携わる人々が協力しあってイノベーションを起こすことが変